

FF-V45M・FF-45MT・FF-55M・FF-55MT 工事説明書

工事店様へのお願い

この製品は
●排気筒内径 → φ40、外径 → φ41
●給気筒接続口外径 → φ40、内径 → φ39になっています。

使用する工事部品は、必ず本機の附属品及びトヨトミ
純正別売品の給排気筒を使用してください。

設置の工事前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正確に据付けてください。
この工事説明書は工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

※本文中のイラストはFF-V45Mにしてあります。

安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、△警告、△注意に区分しています。

△警告 この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

△注意 この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある①マークは「禁止」、②マークは「指示」、△マークは「注意」を表しています。

△注意

★ゴム製送油管の屋外使用禁止 (FF-V45M・FF-55Mのみ)
ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

★ストーブ交換時にはゴム製送油管を交換 (FF-V45M・FF-55Mのみ)
ストーブ交換時には、既設のゴム製送油管を必ず交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがない場合でも新しいものに交換してください。交換しないと火油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

★送油管取り付け時の確認 (FF-V45M・FF-55Mのみ)
既設の油タンクを使用する場合は、送油管をストーブに取り付ける前に、油タンクからの火油をバケツなどの容器で受け、油タンク内に水、ごみ、さびなどがないことを確認してから取り付けてください。油タンク内に水、ごみ、さびなどがたまっていますとストーブの故障の原因になります。

★給排気筒の点検
据付けが終ったら、もう一度点検してください。次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがあるので、必ず修正してください。

●可燃物近接禁止
接続部は正しく接続されていること
●排気筒は壁から離すこと
●距離

●ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。
※保育点検のため片面は30cm以上にしてください。

●給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。
※不燃材の場合は30cm以上

●給排気筒トップは上方および両側に気流を阻止する障害物がないこと。
●排気筒トップは上方および両側に気流を阻止する障害物がないこと。

●給排気筒トップ付近の危険物近接禁止
可燃物貫通、接近のときは断熱
●距離

●給排気筒トップと開口部(窓など)との距離が離れていること
●給排気筒トップ先端の障害物禁止
●距離

●給排気筒トップと開口部(窓など)との距離が離れていること
●給排気筒トップ先端の障害物禁止
●下り勾配のこと/
●距離

●給排気筒トップと開口部(窓など)との距離が離れていること
●給排気筒トップ先端の障害物禁止
●下り勾配
●距離

●油タンクとの距離を離す (FF-V45M・FF-55Mのみ)

油タンクはストーブより2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮いを設けてください。

●屋外タンクでの使用を前提としておりませんので、附属のゴム製送油管の長さは1mです。

●屋内タンクを使用する場合は別売のゴム製送油管(※11070915・長さ3m)をご使用ください。屋内用の据置式の油タンクは、不燃材の床上に据付けること。

●裏面の「**高地仕様への変更のしかた**」を参照して、調節してください。

1 開こん

●包装箱から製品を傷つけないように取り出し、包装材などを取除いてください。
●本機は重量がありますので取り出しへは注意してください。
●その他お使いになる前に製品の輸送中に生じた小ねじのゆるみやはずれなどをいかで調べてください。

附属品の確認

●開こんが終わりましたら、つきの附属品がすべてそろっていることを確認してください。

壁固定金具 ゴム製送油管(長さ1m)(FF-V45M・FF-55Mのみ) ホースバンド(小)(FF-V45M・FF-55Mのみ)

固定ねじ2個 木ねじ2本 タッピングねじ2本

1本

2個

木ねじ(ルームサービス用)

1本

標準給排気筒セット

OリングP40 4種C

給気口キャップ1個

パイプホルダー1個

木ねじ3本

標準給排気筒

給排気筒1個

赤色

給気ホース1個

排気用L形把手1個

ホースバンド(大)1個

本体別箱包1個

排気筒ストッパー1個

断熱カバー1個

本体に取付けてあります。

本体に取付けてあります。

2 据付け

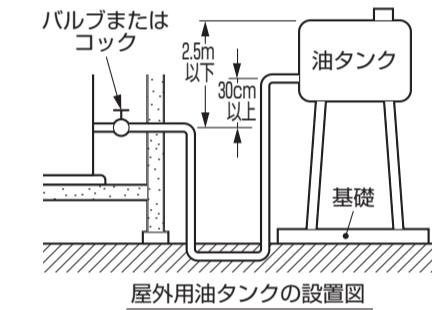
据付け場所の選定

- ストーブを据付けする床面は強い振動や衝撃がなく、ストーブの重量に充分耐え、安定していることが必要です。
- ストーブは水平になるように置いてください。ストーブが水平でないと異常燃焼や対震自動消火装置の誤作動の原因になることがあります。
- ストーブは冷気の入ってくる方向、例えば外気の接する窓の下、壁面に設置すると効果的です。ただし、人の通る所や、可燃物の近くには置かないでください。
- ストーブに物品が落下する可能性があるときは、落下の可能性のないように処置をしておいてください。
- 交流100Vの電気のコンセントの位置を考慮してください。またコンセントは雨や水がかかる、ほこりの多い場所には設置しないでください。
- 直射日光の当たる場所や、温度の高い場所には設置しないでください。
- 理・美容院、メキ、塗装工場、繊維関係工場などスプレーや化学薬品を利用する場所及びほこりの多い場所では使用しないでください。また温室、飼育室など、動物の育成栽培に使用しないでください。
- △警告、△注意の頂をご確認ください。

据付け方法

油タンクの組立てと据付け (FF-V45M・FF-55Mのみ)

- 油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。
- 油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。
- △警告、△注意の頂をご確認ください。
- 油タンクの送油バルブ(油の出口)と本体の送油管との落差は30cm以上になるように置いてください。
- オイルヘッド面との落差は最大2.5m以下にしてください。油が定油面器よりあふれ出ることがあります。
- 室外設置の油タンクの場合は、右図の落差をとってください。
- 油タンクを組み立ててください。
- 油タンクは熱・振動・衝撃の少ない場所に設置してください。
- 床置式の油タンクは、畳・じゅうたんなどの上に据付けないでください。



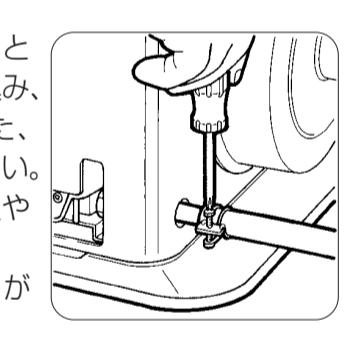
200800200 M04-1

M-1

……据付け方法

送油管の取付け (FF-V45M・FF-55Mのみ)

- 油タンクの送油バルブまたは、給油コックなどの油の出口とストーブの送油管に附属または別売のゴム製送油管を差し込み、附属品のホースバンド(小)で締め付けてください。また、ゴム製送油管は点検していよいよ配慮して取り付けてください。
- ゴム製送油管の接続部のホースバンド(小)は締め付け不足や締め付けすぎに注意してください。
- 送油管の上には重量物のつりたり、折れ曲がったり、空気たまりができるような形状にならないようにご配慮ください。
- 規定の送油管以外は使用しないでください。
- ゴム製送油管は、油タブクを屋外に設置する場合は使用しないでください。
- 油タンクを屋外に設置する場合は、金属製送油管(外径8mm)を使用してください。



お願い

- 電源コードは傷付けたり、束ねたり、無理に曲げたりしないでください。また足でひっかけたり、重量物がのって破損しないようにご配慮ください。火災の原因になります。
- AC 100V 電源を使用してください。100V以外の電源を使うと、電気部品が故障したり、発火することがあります。コンセントは、雨や水のかからない場所に設置してください。またコンセントが傷んだり差し込みがゆいときは使用しないでください。
- ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない場所を選んでください。
- ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。

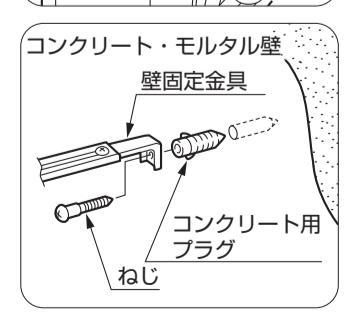
ストーブの固定

- ストーブの据付けが終りましたら、附属品の壁固定金具で本体を壁に固定してください。壁に固定できない場所での使用はおやめください。

① 木または厚い合板の壁に固定する場合は、附属品の壁固定金具を固定し、木ねじを使用して壁に直接固定してください。



② モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込んでから、①項と同様に壁固定金具で固定してください。



……据付け方法

給排気筒の取り出し場所の選定

●△警告、△注意の頂をご確認ください。

●給排気筒トップが閉そくされないよう積雪の多い地方では注意してください。排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

●給排気筒トップは高温になります。人通りの多い所や、可燃物がある所や、可燃性ガスの発生する所には取り付けないでください。

●植木や愛がん動物は給排気筒トップの出口より遠ざけてください。

●小さなお子さまがぶれるような所には取り付けないでください。

●石油を燃焼させるため、点火時、室温調節器の作動時、消火時に、においができます。出入口に近い所、また、外気が室内に入りやすい所には取り付けないでください。隣の家に、においが入ることは迷惑となりますので、避けてください。

●壁に穴を開ける場合、壁内のすじかい・鉄筋・鉄骨・電気・電話配線・ガス・水道配管などにぶれない所を選んでください。

●高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

●ゴム製送油管の取付けは、曲げ半径が小さかったりねじれたりするとゴム内部に応力が加わり短時間でヒビ割れなどが発生し油漏れの原因になります。曲げ半径は最低でもR100mm以上になると、またねじれのないよう設置してください。

●ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない場所に選んでください。

●ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。

ルームサーミスタの配線(移動)

- ストーブ背面のルームサーミスタを床面から1~1.5mの位置に取り付けてください。(リード線の有効長さは2.5mです。)

●ストーブの設置場所や周囲の状況によっては、お部屋の室温調整がうまくいかない場合があります。このような場合には、ルームサーミスタの位置を変更してください。

●リード線が、排気筒にぶれたり、踏んだり、引っかけたりしないように配線してください。

●附属品の木ねじで固定する場合は、木ねじを壁にねじ込んでからセンサーケース裏面の穴に木ねじの頭を通して取り付けてください。

●木ねじを使用できない所では、市販の両面粘着テープで壁や柱に貼付けてください。

●モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込んでから、①項と同様に壁固定金具で固定してください。



3 給排気筒の取付け

給排気筒の取り出し場所の選定

●△警告、△注意の頂をご確認ください。

●給排気筒トップが閉そくされないよう積雪の多い地方では注意してください。排ガスを再度吸込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

●給排気筒トップは高温になります。人通りの多い所や、可燃物がある所や、可燃性ガスの発生する所には取り付けないでください。

●植木や愛がん動物は給排気筒トップの出口より遠ざけてください。

●小さなお子さまがぶれるような所には取り付けないでください。

●石油を燃焼させるため、点火時、室温調節器の作動時、消火時に、においができます。出入口に近い所、また、外気が室内に入りやすい所には取り付けないでください。隣の家に、においが入ることは迷惑となりますので、避けてください。

●壁に穴を開ける場合、壁内のすじかい・鉄筋・鉄骨・電気・電話配線・ガス・水道配管などにぶれない所を選んでください。

●高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

●ゴム製送油管の取付けは、曲げ半径が小さかったりねじれたりするとゴム内部に応力が加わり短時間でヒビ割れなどが発生し油漏れの原因になります。曲げ半径は最低でもR100mm以上になると、またねじれのないよう設置してください。

●ゴム製送油管は紫外線に当たると劣化が早くなります。できるだけ日光の当たらない場所に選んでください。

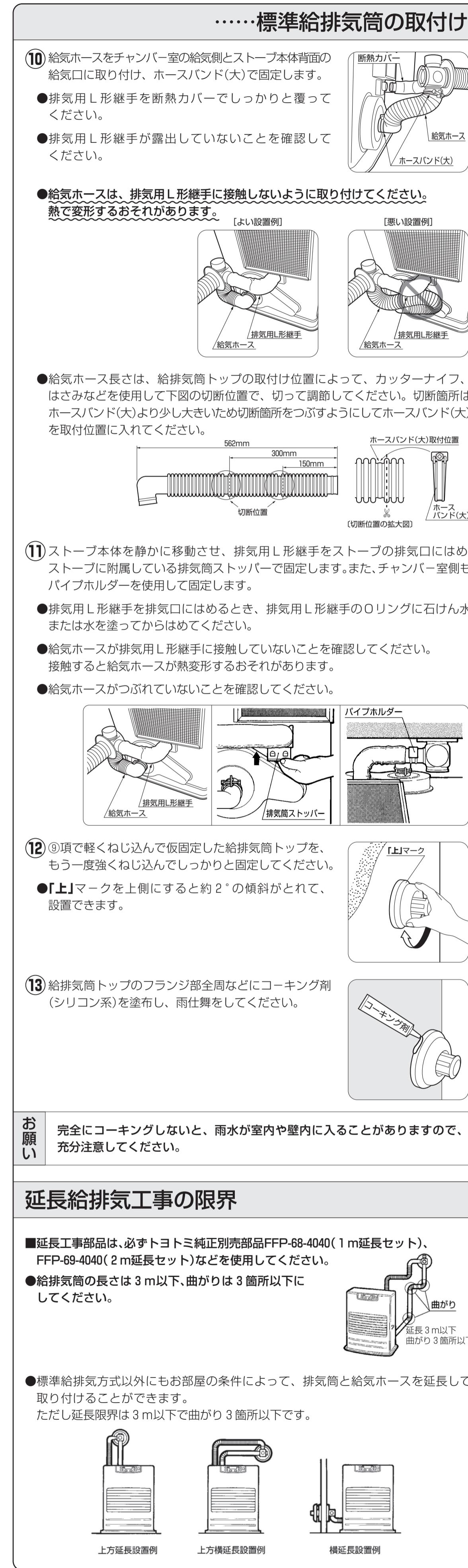
●ゴム製送油管は時間とともに劣化しますので定期的に点検してください。

標準給排気筒の取付け

●壁内のすじかい・鉄筋・鉄骨・電気・電話配線・ガス・水道配管を充分考慮してください。

FF-V45M・FF-45MT FF-55M・FF-55MT

工事説明書



延長給排気工事の限界

●やけど防止のため排気筒には、必ず断熱カバーを装着してください。
●壁や給気ホースに排気筒が接触しないように、パイプ支え金具で、壁などに固定してください。

集合煙突利用の禁止

高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

給排気筒の再利用禁止



古い給排気筒は使用しないでください。必ず附属の給排気筒セットを使用してください。



使用禁止

4 試運転

●試運転は、ご使用者と一緒に必ずおこなってください。
●取扱説明書「15 据付け・移設について」の「試運転」に従って、運転準備、運転、消火の手順の試運転をおこなってください。



●ストーブの据付け工事が終わりましたら、必ず試運転をおこない、使用者に運転方法はもちろんのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処置方法、連絡先等をお教え願います。
●同梱の「取扱説明書(保証書付き)」と共に工事終了後はこの「工事説明書」をお客様にお渡し願います。

5 廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。
リサイクルの支障となります。

高地仕様への変更のしかた

〔標高1000~1500mの場所でご使用の場合〕

※イラストはFF-V45Mタイプです。

① 運転停止中に「-」「+」ボタンを同時に3秒押します。
デジタル表示部が「1E」表示に変わります。
(室内温度が表示されていることもありますが問題ありません。)

② 「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。

③ 給排気筒トップのフランジ部全周などにコーキング剤(シリコン系)を塗布し、雨仕舞をしてください。

④ 「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。

⑤ 頂で軽くねじ込んで仮固定した給排気筒トップを、もう一度強くねじ込んでしっかりと固定してください。

●「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。

⑥ デジタル表示部が「1E」表示中にエコボタンとタイマーボタンを同時に3秒間押し続けます。

デジタル表示部に「AL HI」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻ります。
これで高地設定は完了です。

一度設定をすれば電源プラグを抜いたり、停電があった場合でも高地設定は保持されます。

⑦ 運転停止中に「-」「+」ボタンを同時に3秒押します。
デジタル表示部が「1E」表示に変わります。
(室内温度が表示されていることもありますが問題ありません。)

⑧ 「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。

⑨ 給排気筒トップのフランジ部全周などにコーキング剤(シリコン系)を塗布し、雨仕舞をしてください。

⑩ 完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に入ることがありますので、充分注意してください。

工事店様へのお願い

この製品は
●排気筒内径 → $\phi 40$ 、外径 → $\phi 41$
●給排気筒接続口外径 → $\phi 40$ 、内径 → $\phi 39$
になっています。

給排気筒取付け型紙

288

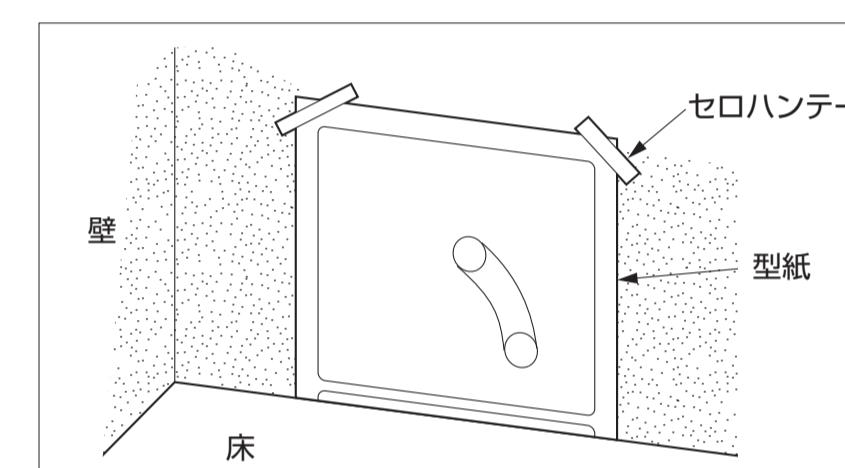
225

標準給排気筒設置可能範囲

型紙のご使用方法

①型紙の床面を床に合わせて壁に貼り付けてください。
②給排気筒の穴あけ位置に印をつけてください。

同時に壁固定金具穴位置にも印をつけてください。



標準給排気筒の取付け

●壁内のすじかい、鉄筋、鉄骨、電気・電話配線、ガス・水道配管を充分考慮してください。

●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものには使用できません。

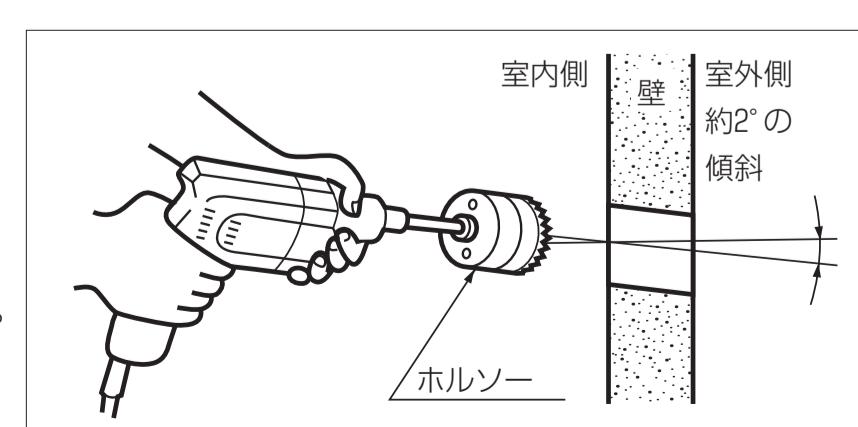
●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものである場合は、別売部品を使用してください。

給排気筒の取付け、本体の固定方法は、工事説明書の「2 据付け」・「3 給排気筒の取付け」をよくお読みください。

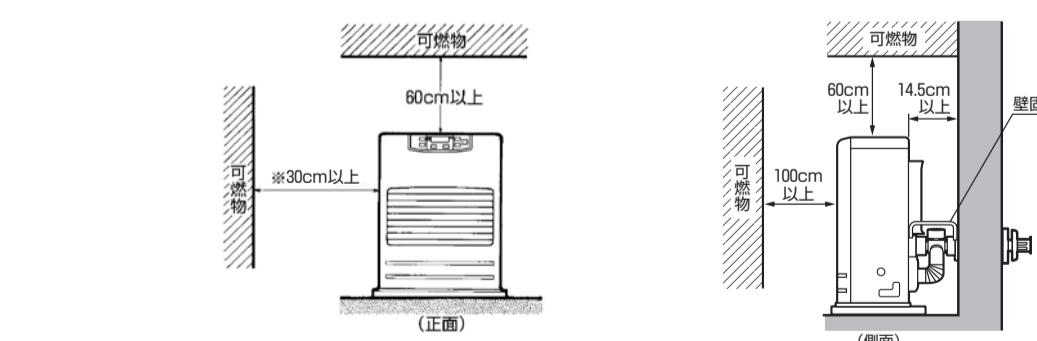
●設置場所を決めてください。

●給排気筒の穴あけ位置を決めてください。
同時に壁固定金具位置にも印をつけてください。

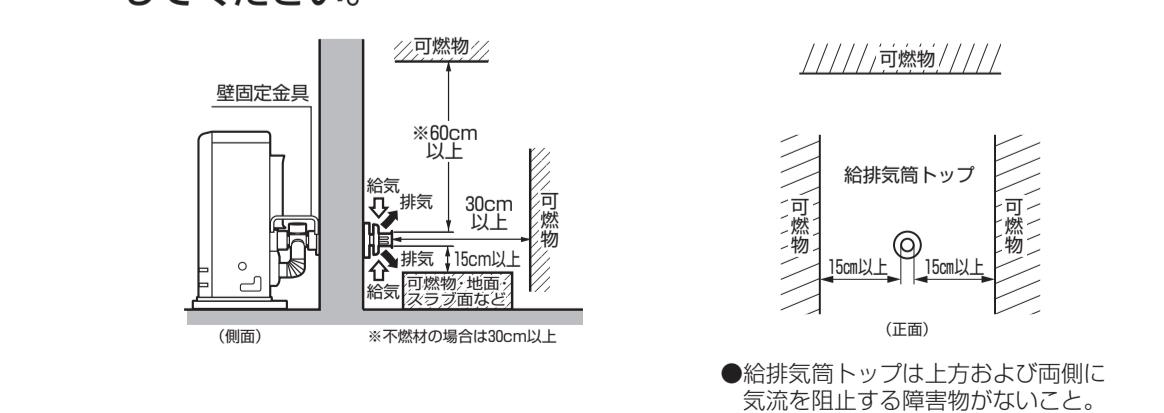
●壁に給排気筒の穴($\phi 70 \sim \phi 80$)をあけてください。
室内側から室外に向けて約2°の傾斜で下向きにあけてください。



■ストーブから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。



■給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離は図のようにしてください。



252

213